

あかし教育研修センター通信

廣岡課長の

あちこち歴史散歩 No. 14

“藤三娘”光明皇后 …その②

18歳で長女阿倍内親王（後の孝謙天皇）、27歳で念願の男子基王（もといおう）を授かりますが、基王は1歳を向かえることなく早世してしまいます。残念ながら以後、光明子との間に（藤原に血のつながる）男子が生まれなかったことが、周囲の権力争いや後継争いを生むことになっていきます。

そういう政争とは直接関係ないところで、私たちは光明子のある決断によって、かけがえのない文化的恩恵を受けています。それは、聖武天皇が亡くなったあとすぐ、聖武天皇の遺品や愛用の宝物を盧舎那仏に献納するという決断をしたことです。つまり、これらが東大寺の正倉院に保管されたことで、1300年前の貴重な宝物が、世界でも稀に見る美しい状態で現代に残ることにつながり、私たちは、毎年秋に開催される奈良国立博物館の『正倉院展』で、シルクロードを渡ってきた国際色豊かな工芸品、豪華な装飾の生活道具、楽器、文房具、染織品の数々を、この目で間近に見ることが出来るのです。また、光明子は、甘草（かんぞう）・大黃（だいおう）・桂心（けいしん）などの舶来の貴重な薬類も大量に献納しており、これらは求めに応じて悲田院や施薬院で多くの病人に施されました。*その一部は、今も正倉院に残っているそうです。

光明子は、盧舎那仏へ献納する際に願文を書きました。そこには「遺品を目にすると聖武天皇の在りし日を思い出して泣き崩れてしまう」との思いが書かれています。この文章から、同い年の天皇に対する妻としての深い愛情と、天平のファーストレディーとして懸命に生き仏教に救いを求めた一女性としての魅力を感じる研究者は少なくありません。

聖武天皇の崩御から4年後、光明子は60歳で生涯を閉じます。亡骸は聖武天皇が眠る佐保山南陵の隣の佐保山東陵に寄り添うように葬られました。元奈良国立博物館学芸部長 西山厚氏のご講演の中で「お二人の陵は、現在、空から見るとハート型に見える」と紹介されています。様々な光明皇后像はさておき、あちこち歴史散歩的には、この事実こそがステキな私実です。

参考文献等

- ・『光明皇后 平城京にかけた夢と祈り』 瀧浪禎子 中公新書 (2017) ・『人物叢書 光明皇后』 林陸朗 吉川弘文館 (1986)
- ・『正倉院宝物 181点鑑賞ガイド』 杉本一樹 新潮社 (2016) ・『平城京遷都 女帝・皇后と「ヤマトの時代」』 千田稔 中公新書 (2008) ・『正倉院文書の世界 よみがえる天平の時代』 丸山裕美子 中公新書 (2010)
- ・なら旅ネット<奈良県公式観光サイト>・第70回 正倉院展ポスター 奈良国立博物館 (2018)



「玳瑁螺鈿八角箱
(たいまいらでんはつかくのはこ)」
2018年の正倉院展ポスターより



聖武天皇陵 (左) と光明皇后陵 (右)
AppleMap より

発行：あかし教育研修センター

〒673-0882 明石市相生町2丁目5番15号 明石市役所北庁舎 (旧保健センター)

Tel: 078-918-5815 FAX: 078-918-5817

E-mail: ed_center@city.akashi.lg.jp



過去の通信を
見ることができ
ます。